

マイクロニクス

ロシア市場に進出

無線通信品質
測定システム
現地社と代理店契約

【立川】マイクロニクス（東京都八王子市、田仲克彰社長、042・637・3667）は、ロシアの代理店と月内にも契約を結び、無線の通信品質を測定するスペクトルアナライザーを拡販す

る。今後、予想される現地の通信事業者からの需要にこたえ、ロシア市場で2011年9月期に1億円の売り上げを目指す。

代理店契約を結ぶのはロシアで通信事業者などに販路を持つラインテスト（モスクワ市）。海外の競合製品に比べ価格が約半分のハンディ型機「MSA3000シリ

ズ」などをロシア市場に投入する。

「（無線機器のメンテナンスの意識が浸透していない）現地では今後、通信品質の向上へのニーズが高まっていく」（田仲社長）とし、携帯電話や電機メーカーの研究開発部門、通信事業者などに機器の導入を提案し拡販する。

ロシアへ製品を輸出す

る際に必要なロシア連邦国家規格機関（GOST-R）の認証取得費用は代理店が負担することで合意する見通し。認証取得には数カ月期間が必要だという。

マイクロニクスはこれまで国内で16社、海外では北米や欧州、中国の19社と代理店契約を結んでおり、海外売上比率は約3割。スペクトルアナライザーをはじめ、料金自動收受システム（ETC）の自動試験機などの開発から製造販売を手掛ける。